

古墳密集地域である豊岡市への高精度地形図適用の可能性

仲田 周平（豊岡市文化財室）

兵庫県豊岡市では、周知の埋蔵文化財包蔵地として 6396 件の古墳および横穴墓を把握しており、その数は兵庫県全体の 33% に及ぶ。また、市の面積は県全体の 8% 程度であることから、面積に対する古墳の密度は県平均の 4 倍である。なお、これら古墳の多くは 10 m に満たない小形の円墳・方墳であり、平野部に近く標高の低い丘陵の尾根上に集中してみられる。場所によっては山全体が小規模な古墳で埋め尽くされているような様相を呈する。

一方、6396 件の古墳および横穴墓は、豊岡市（合併前の旧市町を含め）が実施した分布調査等によっての確認である。これらの調査は、開発行為が予測される場所や存在が想定された場所が中心である。さらに、調査期間および安全上の理由より調査が困難な箇所が存在していることから、市域全体を網羅したものではない。また、発掘調査の蓄積により但馬地域における古墳時代中期以前の小規模古墳では、墳丘盛土を持たず平垣面および境界溝の造成を主目的としたものの存在が一般的となっている。こういった古墳は低墳丘であり、墳形も明瞭ではない。現地の植生によっては見分けが困難で、なおかつ過去と現在では古墳として判定するかの基準が異なる。既に分布調査がおこなわれた場所においても、新規の発見や古墳群の範囲・基数の変化が起こる可能性は比較的高いと考えられる。

このように、豊岡市はさらに多くの古墳が存在する可能性があり、分布調査等による確認の必要性は高い。しかしながら、当市は兵庫県で最も面積の大きい自治体であり、現地の確認には移動のみであっても長い時間を費やす。高精度地形図については市全体を網羅しており、大型の古墳や中期後半以降に現れる墳丘や墳形が明瞭な小規模古墳は明確に地形図に現れる。また、墳丘が不明瞭な古墳についても、地形を見ることで可能性があるかどうかの参考となる。最終的な判断は現地に行き確認することが前提ではあるものの、高精度地形図は事前に状況を知る上で重要な情報である。